

公衆衛生看護活動論Ⅱ（問題・課題別）

単位数（時間数）：1 単位（30 時間） 必修/選択：選択 履修年次：3 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・佐藤公子

科目担当者（職位・氏名）：助教・石田知世

非常勤講師・北宮千秋、非常勤講師・前川明宏

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：85

■ 授業概要

地域のリスクを抱える人々の公衆衛生看護活動に関連する法令や施策を教授する。また、リスクを抱える対象の特徴とその個人・家族、集団、地域における具体的な公衆衛生看護活動の展開方法を教授する。

■ 到達目標

1. 地域のリスクを抱える人々の公衆衛生看護活動に関連する法令や施策を説明できる。
2. 地域のリスクを抱える人々の特徴を理解し、公衆衛生看護活動の展開過程を説明できる。

■ 教育内容

公衆衛生看護活動展開論

■ キーワード

支援ニーズの高い親子、精神保健、難病対策、健康危機管理

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	ガイダンス	公衆衛生看護活動の視点 地域ケア体制づくり 健康課題に沿った公衆衛生看護活動と施策化 公衆衛生看護活動の現状と課題	佐藤
2	支援ニーズが高い親子の健康課題と支援①	活動の根拠とする法律・制度および基礎知識 低出生体重児/発達障害	石田
3	支援ニーズが高い親子の健康課題と支援②	医療的ケア児他	石田
4	親子の愛着形成	虐待を把握する方法 虐待に関する地域連携システム	石田
5	高齢者と家族の健康と生活の支援(1)	事例を用いた学習地域・集団の高齢者の健康問題 1. 高齢者世帯、家族介護者の特性 2. 情報の整理と健康課題の明確化 3. 健康課題に対してする支援目標と計画の考え方	佐藤
6	地域で暮らす高齢者の健康課題別の支援① 1) 高齢者の特徴と発達課題 高齢者の課題とアセスメント 2) 介護予防の理念と支援	1. 高齢者の特徴と発達課題 2. 高齢者に多い健康問題とアセスメントの方法 3. 介護予防の理念と実践（具体的取り組み） 4. 保健師の役割、多職種連携、社会資源	佐藤
7	地域で暮らす高齢者の健康課題別の支援② 3) フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの予防 4) 孤立予防	1. フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアの概要と支援方法 2. 保健師の役割、多職種、社会資源と活用方法 3. 孤立、孤独（死）の概要と支援方法 4. 保健師の役割、多職種、社会資源と活用方法	佐藤

8	<p>地域で暮らす高齢者の健康課題別の支援③</p> <p>5) 要支援・要介護高齢者</p> <p>6) 社会資源</p>	<p>1. 介護保険制度の概要</p> <p>2. 要支援・要介護状態とは、要介護認定の仕組み</p> <p>3. 介護認定に合わせた支援と保健師の役割 6)-1. 要支援・要介護者が活用できる社会資源</p> <p>4. 保健師が協働する多職種</p>	佐藤
9	<p>難病療養者、人工呼吸器装着者（医療依存度の高い精神難病療養者）の活動の実際</p>	<p>保健師活動の実際</p>	前川
10	<p>歯科口腔保健活動</p>	<p>1. 歯科保健の動向</p> <p>2. 歯科保健の実際（乳幼児～高齢者を対象とした保健活動）</p>	佐藤
11	<p>健康危機管理</p>	<p>健康危機管理の定義と要因</p> <p>健康危機管理の要素</p>	佐藤
12	<p>健康危機管理</p> <p>感染症対策</p>	<p>保健師活動の実際</p>	前川
13	<p>健康危機管理</p> <p>保健師活動と放射線①</p>	<p>1. 放射線の基礎知識</p> <p>2. 原子力災害・事故に関連した法・制度</p>	北宮
14	<p>健康危機管理</p> <p>保健師活動を放射線②</p>	<p>原子力災害での保健活動</p>	北宮
15	<p>まとめ</p>	<p>公衆衛生看護活動論Ⅱ</p>	佐藤

■ 履修条件

ヘルスプロモーション論、公衆衛生学の単位を取得していること。

■ 成績評価方法

期末試験 100%

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

希望者に対して、試験のフィードバックを行う。希望者は、事前にアポイントを取ったうえで、科目責任者の研究室を訪ねること。

■ 教科書

- ・中谷芳美他編（2024）『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動 第5版』医学書院
- ・井伊久美子他編（2025）『新版 保健師業務要覧 第4版 2025年版』日本看護協会出版会

■ 参考書・参考資料等

- ・岡本玲子他編（2022）『公衆衛生看護学テキスト 第3巻 公衆衛生看護活動論 I 第2版』医歯薬出版株式会社
- ・中村裕美子他編（2023）『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』医学書院
- ・藤内修二他編（2025）『標準保健師講座別巻 1 保健医療福祉行政論 第6版』医学書院
- ・村嶋幸代他編（2022）『保健学講座第3巻 公衆衛生看護活動展開論』メヂカルフレンド社
- ・安藤雄一他編（2024）『公衆衛生がみえる 2024-2025』MEDIC MEDIA
- ・保健師の活動と放射線研究班編（2018）『保健師と放射線 すぐに使える講義・演習・事例検討』真興交易株式会社
- ・厚生労働統計協会編（2024）『国民衛生の動向 2024/2025』厚生労働統計協会

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・事前学修：シラバス該当箇所のテキスト及び参考資料を読了しておくこと。
 - ・事後学修：配布資料を確認し、理解に努めること。
- 事前・事後学修は、計 90 分程度行うこと。

■ 担当教員からのメッセージ

事前学習・復習をして講義を受けること。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 12、kisato★iwate-uhms.ac.jp、授業日 17:00 まで

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

保健師・研究職

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

リスクを抱える対象者の事例を基に、新たな公衆衛生看護活動について論述する。講義時間内にディスカッションの時間を設けるので、積極的な参加を望む。